

値中だより

令和2年 3月 17日

文責 小値賀中学校 校長

- ① 求めて学ぶ生徒
- ② 心を高める生徒
- ③ たくましい生徒

祝・卒業 第73回卒業証書授与式……………3月17日

ウィルスが心配され、お世話になった地域の方々を来賓としてお招きすることもできませんが、今日、卒業式を挙行できることを大変嬉しく思います。せめてもと思い、三年間の振り返りと巣立ちへの願いを述べた「式辞」の一部と卒業生代表の「答辞」の全文を紹介させていただきます。



三年前、本校に赴任した私は、入学してきた皆さんに初めて会いました。落ち着いた学年で、自己主張がやや少ない感じでしたが、一年生の学習発表会では、小値賀の昔話から地域に伝わる妖怪を研究し、この体育館で幼くもユーモラスに演じたことを思い出します。妖怪のお面覚えていますか？可愛かったです。その皆さんが、先日の中学生模擬議会では、学級閉鎖後の縮小された議論でしたが、小値賀町に対する熱い提言を、一人一人堂々と述べる姿に胸が熱くなりました。六年生でも模擬議会で議論をした経験のある皆さんは、議員さんたちとの事前打合せでも、町長さんとの議論で再質問をしようと思っただけで、何とたくましく成長したことかと思無量でした。小値賀未来学の集大成を感じた思いです。



中学校の思い出のひとつになる部活動。二年生になる頃、生徒数は今までで一番少なく、三年生引退後は部員数も減り、活動が制約される部が多かった年です。そんな中でも地道に練習を重ね、先輩から受け継いだ何かをつないでいくという思いで、翌年の試合やコンテストを目標にひたむきに頑張る姿がありました。三年生になる頃、どの部もメンバーがそろい、これまでの思いを、試合やコンテストにぶつける皆さんを、私たちは心から応援しました。振り返ると、職場体験・野崎島野外宿泊・学習発表会・駅伝大会・生き方講演会・人権集会・平和集会・ロードレース大会、そして生徒集会や専門部活動、日々の授業、様々な行事や学びの中で、皆さんはたくましく成長しました。後輩のお手本やリーダーとなって、泣き言を言わず日々前向きにコツコツと取り組む中で、本校の目標「自分で考え正しく判断し最後までやり抜く生徒」になってくれたことを誇りに思います。

これからの話をします。昨年十一月、長崎の県庁で、福山雅治さんが、離島の高校生二十六名と「島を離れる前に、みんなで話したかったこと」と題して「青いぜ！ブルーアイランズ・ミーティング」が五時間に渡って開かれました。小値賀の岩永太陽さんはじめ1ターンの移住者六名も招かれました。皆さんが中学生模擬議会の準備をはじめた頃、その延長線にあるともいえるミーティングです。「大切に大好きな島。でも、人が減り産業も弱くなっていく。島のために何かしたい。でも、残るわけではなく一回出てみたい。どうすればいいんだ。」ここが出発点でした。島の大人はどんな仕事をしているの？島に人が集まるアイデアは？と考え、島の可能性を探る中で、高校生が感じたことは……〈島のことがどこかで好きだし、帰ってみて島で働くのもいいのかなと思いました。〉〈こんな感じの話し合いを再びしてほしいです。〉〈自分たちが島の魅力を知ること、他の人に伝えられる。今まで知らなかったことに気づけたことが今日一番の学びです。〉……ちなみに、今年の本校の生徒会長は「世界一、住みたい島・小値賀島にする！」と書いています。福山さんは最後に「今全て決める必要は全然ない。今思っていることは思っていることでもいい。島に暮らした皆が、どこにいようと、これからの島のことを思い続けている。まずは、そこから…」と言い、台風で来れなかった小値賀島にも来年は来て、みんなに会いたいと岩永さんと約束されたそうです。

社会が大きくチェンジ＝変化します。全国的に人口が減り、人口知能が普及して仕事も減り、誰にも予測できない様々な課題が見えてきます。先に話した離島の課題もその一つです。それは長崎県の課題であり、日本の課題です。だからこそチャンスです。変化を良いチャンスだととらえ、新しい発想で新しい仕事をおこし、新しい価値を生み出す若者が求められています。そのためにチャレンジする力が必要です。新たな人・もの・出来事と出会い、時に悩み躓くことでしょ。そんな時こそ、仲間と、夢を語り合い、学び合い、切磋琢磨して欲しい。自分でしっかりと考え、正しく判断し、最後までやり抜き、新しい自分を創造して欲しい。そう願っています。さあ、新しい門出です。「僕の前に道はない」「僕の後ろに道はできる」しっかりと自分の道を創って行ってください。



次の三年間は島の中であれ外であれ、社会に出る前の大切な期間。進路に悩むことが多々あるはずですが、とても大切で必要なことです。門出を祝い、応援していきたいと思ひます。

卒業生代表「答辞」全文……………別れの言葉

やわらかな日ざしが心地よく、春の訪れを感じる季節となりました。本日は、臨時休校期間中にも関わらず、私たちのためにこのような盛大な式を行ってくださり、ありがとうございます。本日をもって私たち卒業生十一名は義務教育の課程を修了し、それぞれの道へ歩き出そうとしています。

三年前の入学式の日。着慣れない制服に身を包み、ワクワドキドキしながら、この小値賀中学校に入学しました。何もかもが初めてで、たくさん失敗しましたが、そのたびに先輩や先生方が私たちを優しく教え導き、力強く背中を押してくださいました。中学校では学習量が増え、部活動も始まって忙しくなりましたが、自分で何かを成し遂げようと、自立する心が芽生えました。また、中学校生活は、不安や大変さの分だけ達成感や楽しさがあるんだと思いました。

二年生になると、後輩ができました。「先輩」と呼ばれることが嬉しい反面、教えられる立場から教える立場になり、責任感を持つようになりました。部活動では、先輩方が引退し、私たちがチームを引っ張っていくようになりました。不安もありましたが、後輩に頼られる先輩になれるよう、一生懸命頑張りました。行事では野外宿泊活動が思い出に残っています。大雨と雷で舟森集落へは行けませんでした。教会や集落の歴史、潜伏キリシタンについて学びました。また、みんなで作ったカレー、おしゃべりをしながら食べたバーベキューなど、とても楽しい思い出ばかりです。野外宿泊活動では協力することの大切さを学ぶことができました。

そして今年度、私たちは最高学年になりました。いろいろな行事が中学生として最後となり、そのすべてに全力で取り組みました。六月に行われた最後の市中体。みんなからもらったメッセージを読み、やる気と勇気をもらって、本番に挑みました。結果は、目標には届かなかったかもしれませんが、それぞれの会場で、みんなが心を一つにして完全燃焼することができました。三年間の部活動は、時にはつらく辞めたいと思ったこともありましたが、共に汗を流してきた仲間と最後まで戦い抜くことができたことが何より嬉しかったです。修学旅行では、鹿児島、熊本、福岡に行きました。初めての場所ばかりで、不安もありましたが、「みんなで行くから楽しい旅行になるよ」という友達の言葉で、安心することができました。鹿児島島の知覧では、戦争の悲惨さと平和の尊さ、家族や友達の大切さについて改めて感じました。自主研修では、みんなでしろくまを食べ、迷子にならないように確認をしながら、たくさん歩いて鹿児島島の歴史について学びました。グリーンランドや夜のレクリエーションなど、みんなでたくさん笑い合いました。楽しかった修学旅行ですが、小値賀に帰ってくると、やっぱり小値賀が一番いいなと思いました。学習発表会では、修学旅行で感じた小値賀の良さを発表しました。映画「アラジン」をモチーフに、台本作りから自分たちで行いました。限られた時間の中での準備は、忙しかったですが、三年生が一丸となっていい劇をつくることができ、達成感も大きかったです。この一年間、たくさんの行事があり、そのたびに絆を深めながら、私たちは成長することができました。

そんな私たちの成長をいつも支え、導いてくださった先生方。日々の授業はもちろんのこと、分からないことや困ったことがあると、相談に乗ってくださり、とても助けられました。特に、私たち三年生を担当し、いつも近くで見守ってくださった松永先生、佐藤先生、本村先生。学習面でも生活面でも、いつも私たち生徒のことを一番に考え、たくさんのサポートをくださる先生方は大きな存在でした。時には叱られたこともありましたが、今では、それもいい思い出です。これからも先生方に教えていただいたことを忘れずに、頑張っていきます。

家族のみなさん。十五年間、育ててくれてありがとうございました。私たちが学習発表会で歌った「蕾」という曲の中に「絶やすことなく 僕の心に灯されていた 優しい灯は あなたがくれた理由なき愛の灯(あかし)」という歌詞があります。この歌詞のように、物事がうまくいなくてつらく当たったり、反抗した態度をとったりしたときも、たくさんの愛情を注いでくれました。いつも私たちを応援し、励ましてくれた家族の支えがあったからこそ、私たちはここまで成長することができました。これからも迷惑をかけるとは思いますが、よろしく願います。

また、いつも私たちを温かく見守ってくださった地域の皆さま。毎日、笑顔で挨拶をくださり元気をもらいました。時には中学校の行事にも足を運んでくださいました。家族のように接してくださる地域の方々のおかげで、私たちは安心して学校生活を送ることができました。

そして在校生のみなさん。みなさんにとって、私たちは頼れる先輩になれていたでしょうか。私たちがリードしていかなければならないのに、一、二年生に助けられることもありましたが、みなさんが頑張る姿に元気をもらい、みなさんの成長を感じたときはとてもうれしかったです。進級するにつれて、忙しくなり大変になることが増えてくるとは思いますが、周りには支えてくれる人がたくさんいるから大丈夫です。川村会長を中心に、全校生徒が一丸となって、素晴らしい小値賀中学校を築き上げていってください。

最後に三年生の仲間へ。私たちのクラスは仲が良く、どんなときもみんなで協力して乗り越えてきました。学習発表会や野外宿泊活動、修学旅行などの学校行事はもちろん、何気ない毎日や他愛のない会話、そのすべてが一人一人の中でかけがえのない思い出として心に残っていると思います。四月からは、この十一人で過ごすことは、もうありません。でも、私たちには、これまでの生活で築き上げてきた強い絆があります。これから離れ離れになっても、私たち十一人は、その絆で固く結ばれていると強く信じています。

いよいよお別れのときです。これまで温かく見守り、強く育ててくださった全ての人に感謝します。皆様のご健康とご多幸、そして、私たちの母校、小値賀中学校のますますのご発展をお祈りして、答辞とさせていただきます。

